

平成21年度九州ブロックにおけるリユース・リサイクル促進による地域循環圏の構築に関する調査

「九州地域における小型家電等の レアメタルリサイクル可能性調査」 - 現状報告 -

第2回地域循環圏に関する九州会議

日時: 平成21年12月10日 13:00 ~ 17:00

会場: 福岡朝日ビル

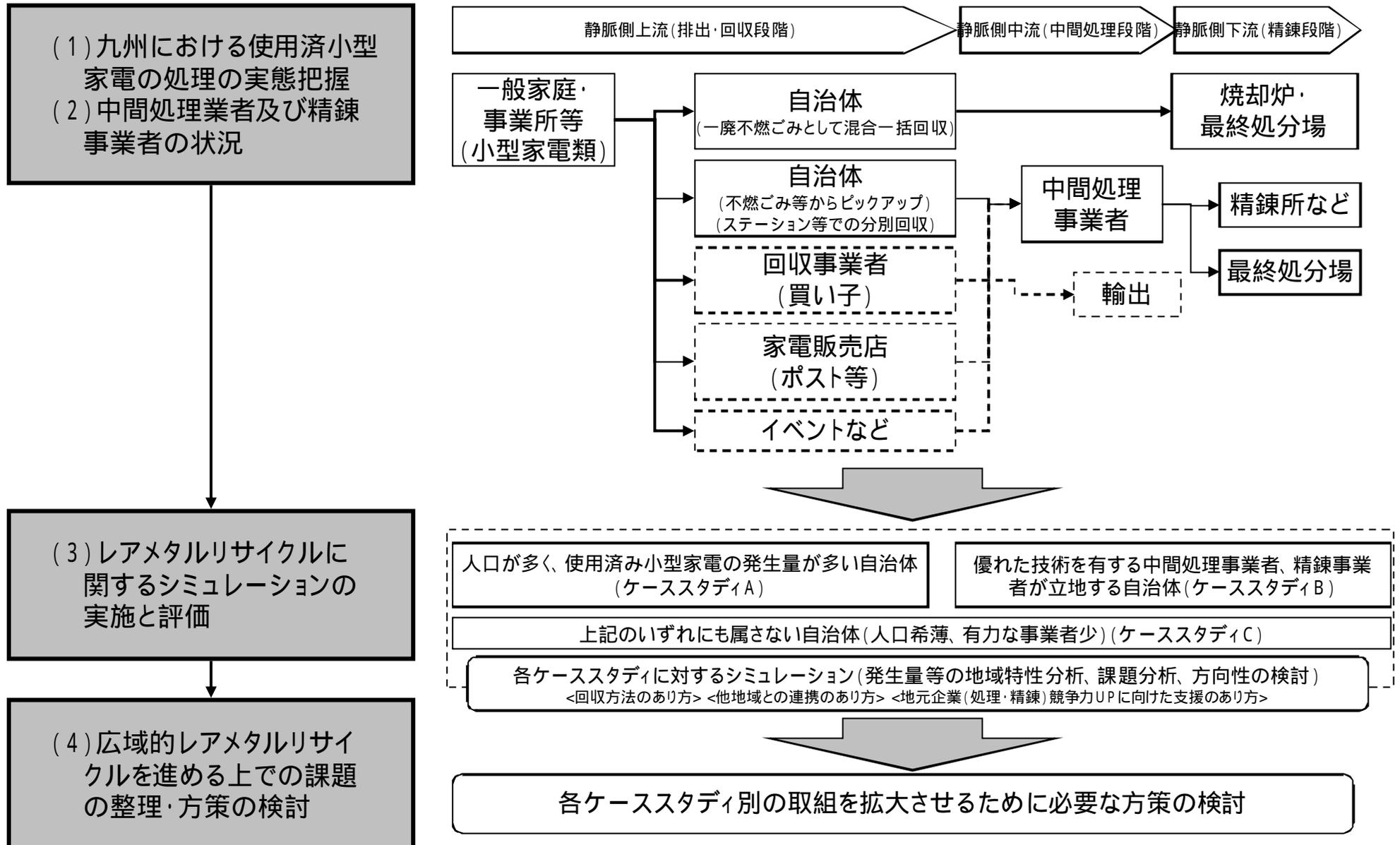


経済産業省

九州経済産業局

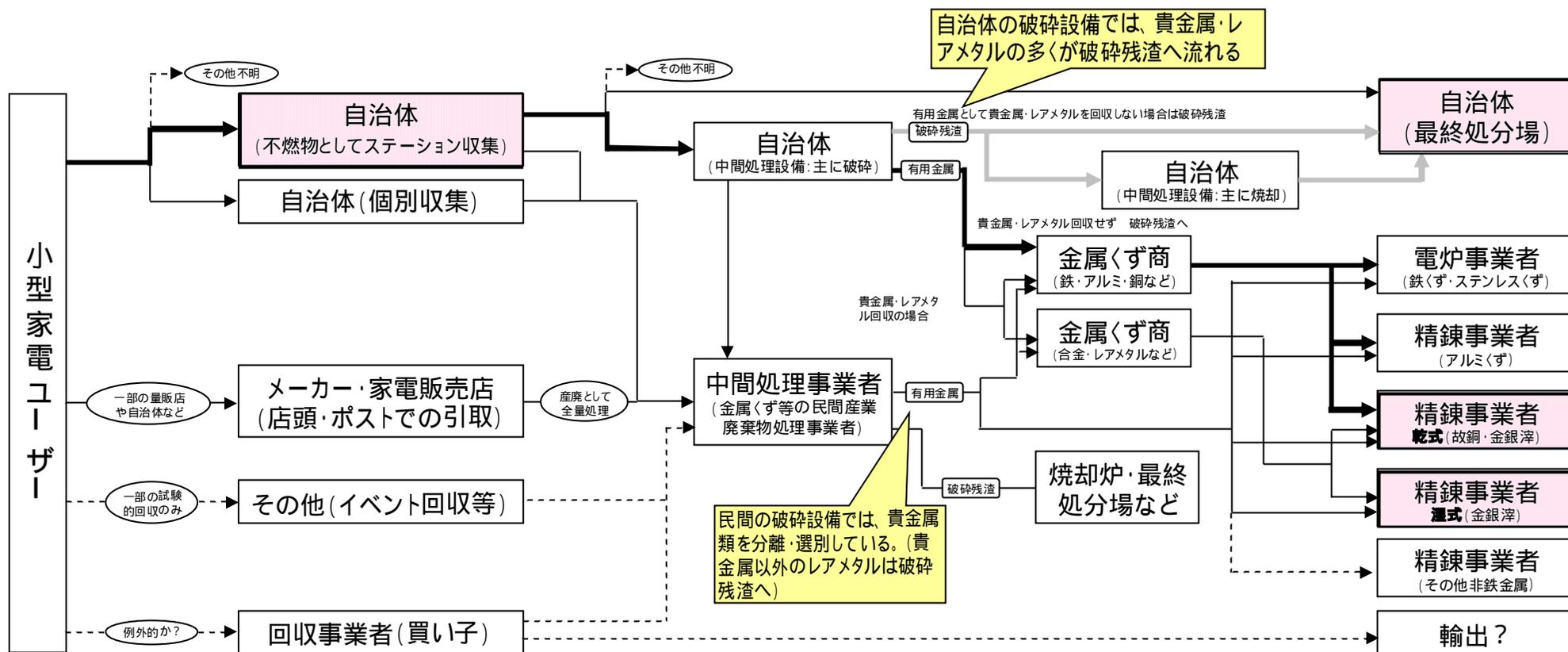
Kyushu Bureau of Economy, Trade and Industry

「九州地域における小型家電等のレアメタルリサイクル可能性調査」調査全体像



九州における使用済小型家電の処理実態 / 中間処理事業者及び精錬事業者の状況

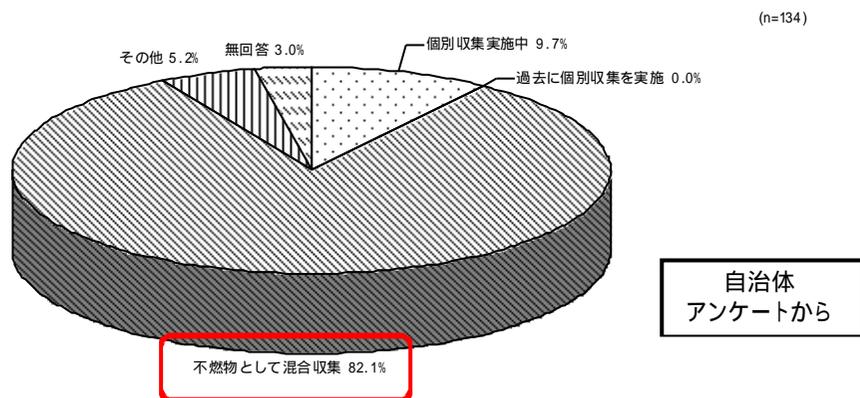
- ▶ 家庭などから排出された小型家電の大半は、自治体の不燃ごみとして回収されている。
- ▶ 自治体回収されたものは、破碎後に有用金属(貴金属・レアメタル除く)を回収して最終処分される。
 - ✓ 小型家電の中の貴金属・レアメタルは、多くが破碎残渣として埋立処理等されている。
- ▶ 民間の中間処理事業者で破碎されたものは、有用金属として貴金属類も回収される。



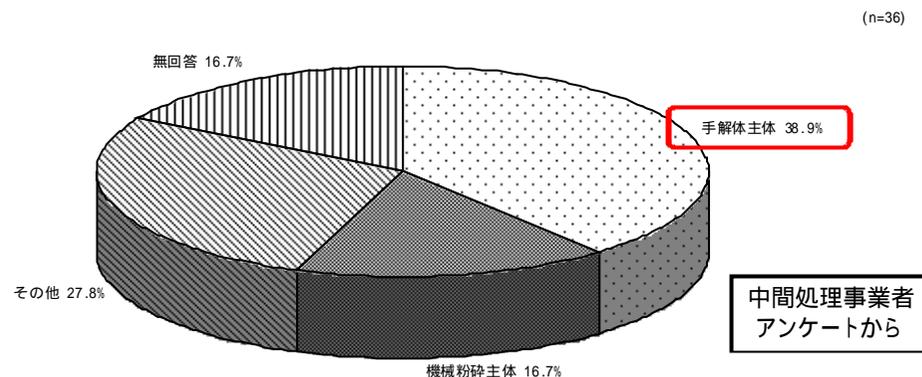
九州における使用済小型家電の処理実態 / 中間処理事業者及び精錬事業者の状況

- 九州管内自治体向けアンケート
 - ✓ 134件の回答・146自治体分の回答(広域組合等による代理回答21自治体分含む)
 - ✓ 回答率:54.3% 自治体捕捉率:59.1%(広域組合等による一括回答を自治体件数分のみた割合)
- 九州管内で廃棄物処理業の免許を有する中間処理事業者(金属くず)向けアンケート
 - ✓ 175件の回答・回答率:28.8%

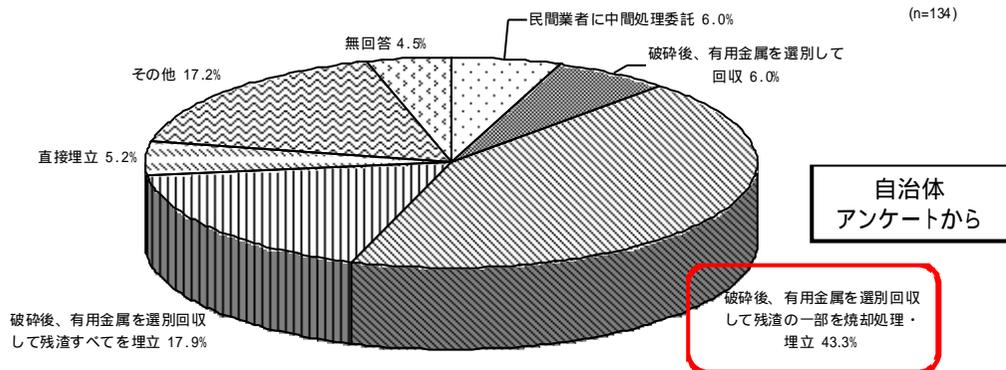
小型家電の回収状況→不燃物として混合回収が最多



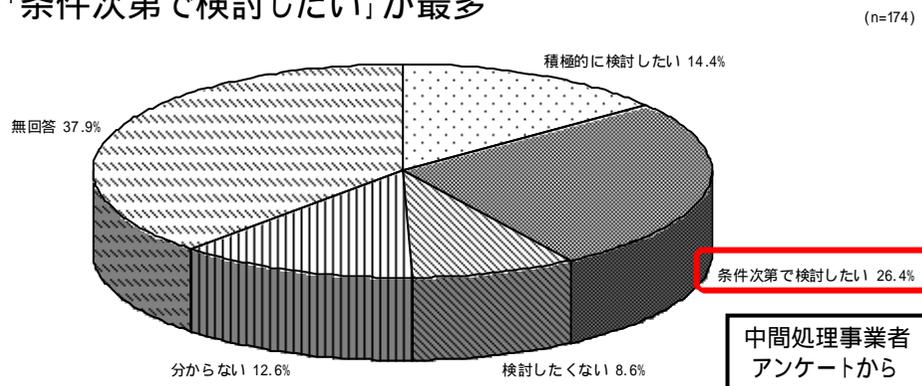
小型家電の処理方法→手解体主体が多い



小型家電の処理状況→「破碎後に鉄等を回収して焼却」が最多



小型家電からのレアメタルリサイクルに対する関心度
→「条件次第で検討したい」が最多



レアメタルリサイクルに関するシミュレーションの実施と評価

▪ 【ケーススタディA】

- 人口が多く、使用済み小型家電の発生量が多い自治体の例

▪ 【ケーススタディB】

- 優れた技術を有する中間処理事業者、精錬事業者が立地する自治体

▪ 【ケーススタディC】

- 上記のいずれにも属さない自治体(相対的に人口少ない、有力な中間処理事業者や精錬事業者がいない、など)

▪ 調査検討項目の一例

- 地域特性
 - ✓ 人口、世帯数、年齢構成、主要な製造品、と製造品出荷額、自動車保有台数、ごみ排出量など
 - ✓ ポスト設置が可能な公的施設などの数
 - ✓ イベント回収に適したイベントの回数など
- 使用済み小型家電の発生量・回収量(方法別推計)
- 使用済み小型家電と関連廃棄物の回収区分と処理の現状
- 地域における有力な中間処理事業者・精錬事業者の立地動向
- 小型家電からのレアメタルリサイクルに対する意向
- 当該地域で小型家電からのレアメタルリサイクルを促進させようとする場合の課題と方向性